

NOLTA ソサイエティの発足

Founding NOLTA Society

1. 第5のソサイエティ：NOLTA ソサイエティとその運営

電子情報通信学会に5番目のソサイエティとして、NOLTA ソサイエティが平成26年10月1日に発足いたしました。

基礎・境界ソサイエティ (ESS: Engineering Science Society) は、文字通り、本会の基礎領域や境界領域を担うソサイエティであり、広範な研究分野をカバーしています。既存の4つのソサイエティの中で唯一、サブソサイエティという単位の活動を行っており、サブソサイエティが発展してソサイエティ化することが期待されていました。このたび、サブソサイエティのひとつである非線形理論とその応用 (NOLTA: Nonlinear Theory and Its Applications) サブソサイエティが、ソサイエティ化をはたし、名称をNOLTA ソサイエティとすることになりました。

ソサイエティ化が期待されているということで、長い間、ソサイエティ化について多くの議論がなされてきました。それらを受けて平成25年12月16日開催の本会理事会において、ソサイエティ化が提案され、満場一致で承認されました。その後、平成26年5月22日開催の理事会において、ソサイエティ規程の改正として、その付則に以下の文章が追加され、10月1日にNOLTA ソサイエティの発足が決まりました。

【平成26年10月1日より発足するソサイエティは、NOLTAソサイエティとする。ただし、NOLTA ソサイエティは、理事会の承認に基づく基礎・境界ソサイエティとの共同体運営により、本ソサイエティ規程の条件を満たすものとみなす。共同体運営に関しては、適宜、理事会において見直すものとする。】

2. 基礎・境界ソサイエティとの共同体運営

改正されたソサイエティ規程に基づき、学会の構成図 (<http://www.ieice.org/jpn/about/kouseizuru.pdf>) に示されていますように、基礎・境界ソサイエティとNOLTA ソサイエティは共同体運営いたしますが、それぞれソサイエティ運営規程を定めており、その意味ではそれぞれ独自に活動するソサイエティです。現在基礎・境界ソサイエティに登録いただいていた会員の皆様におかれましては、当面は基礎・境界ソサイエティ-NOLTA ソサイエティ共同体に登録いただいているとみなされ、サービスにも何ら変わりはありません。共同体運営を整える過程で、皆様のソサイエティへの登録についても検討を進めて参ります。また、基礎・境界ソサイエティの会長、次期会長は電子情報通信学会の理事でもあり、これも共同体運営が整うまでは継続されます。

3. NOLTA ソサイエティの目指すところ

NOLTA ソサイエティがカバーする学問領域は、非線形系や複雑系の理論とそれらの応用から、実在する非線形システムや複雑システムの解析や制御に至るまで、非常に広範に及んでおり、特に電気・電子・通信や情報処理に関連する非線形理論・応用に特徴を持っています。このような学問領域を持つ学術ソサイエティは、米国や欧州にも存在せず、この分野では、NOLTA ソサイエティが世界で唯一の学術ソサイエティです。NOLTA ソサイエティでは、このユニークな学問領域の世界的発展の中心を担い、同分野の研究者の育成に貢献すべく、今後様々な活動を充実させていく予定です。例えば、現在すでに開始している研究専門委員会研究会の海外、特にアジアへの展開があります。編集委員の半数以上が外国人である基幹論文誌 **Nonlinear Theory and Its Applications**, **IEICE** の更なる充実とサーキュレーションの増強、外国人会員の増加など、NOLTA ソサイエティの国際化を押し進め、ひいては学会全体の国際化に貢献したいと考えています。

発足したばかりで、今後解決しなければならない課題はたくさんございますが、これらを早急の一つずつ解決し、よりよい運営体制を構築してまいりますので、今後ともご協力の程、お願い申し上げます。